

# 甲斐市立玉幡小学校 学校関係者評価書

令和5年2月10日（金）

甲斐市立玉幡小学校 学校関係者評価委員会作成

## 学校関係者評価委員会

実施日：令和5年2月3日（金）午後2時45分から3時45分

会場：甲斐市立玉幡小学校 理科室

参加者：学校評議員：小田切 一男 ・ 志村 俊光 ・ 村松 まゆみ ・ 星 愛  
P T A代表：新海 文裕 ・ 岡 浩之 ・ 山田 朋美 ・ 深澤 晶子  
学校側：校長 小林 正彦 ・ 教頭 久保田 勲  
教務主任 金丸 恭子

### I 学校側から提案された内容

〈教職員自己評価書について〉

- 1 達成状況について
- 2 改善策について
- 3 まとめ

### II 協議された主な内容

#### 1 全体の概要について

##### (1) 教職員自己評価について

- 学校教育目標や学校経営について、全員の教職員が肯定的な意見であり、校長の経営方針に基づく学校教育活動がなされ、一定の成果をえることができていること。

##### (2) 小学生アンケートについて

- 「学校は楽しいですか」の肯定意見が90.4%となり、多くの児童が学校生活に満足している状況であること。

##### (3) 保護者アンケートについて

- 「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」の肯定意見が93%以上であり、好意的な評価であること。

#### 2 学校教育目標・学校経営について

- 教職員の意識のベクトルを同じ方向に合わせ、組織的、協働的に職務に当たるようにしていく。
- 研修などを通じてカリキュラムマネジメントについてより理解を深め、教育活動ごとに成果と課題を洗い出し、改善策を確認し、次の活動に生かしていくこと。
- 一人一人の児童のニーズに応じた合理的な配慮が学校体制で取り組めるように、教職員間の情報共有を確実にやっていくこと。

### 3 学校運営について

- 「危機管理マニュアル」を的確に活用できるように、教職員への周知や訓練を行い、学校事故を最小限に食い止めることができるようにしていくこと。
- O J Tを意識した校内研究での成果を日々の教育活動に生かしていくこと。

### 4 学習指導について

- 学年主任を中心に、「やまなしスタンダード」で求められる「めあて」の明確化を意識して、授業づくりを行っていくこと。
- I C Tを効果的に活用した授業づくりに取り組んでいくこと。
- 「家庭学習の手引き」「がんばるカード」の取組を通して、学校と家庭が両輪となって、児童の学力向上を推進していくこと。
- 情報モラル教育の推進と、保護者への啓発を継続していくこと。

### 5 生徒指導について

- 規範意識の涵養を目指し、頑張っている児童の姿を認め、褒めながら、学校全体の自尊感情を育てていくこと。
- 児童の問題行動については、早期発見に努め、組織的な対応ができるよう、S CやS S W、甲斐市子育て支援課、児童相談所と連携しながら、全教職員の共通理解のもと、問題解決にあたっていくこと。

### 6 地域との連携について

- 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、今後も、竜王中部公園セミナーハウス、甲斐市社会福祉協議会、その他地域関係団体と連携し、児童の学びを深めていくこと。
- 学校だよりや学校ホームページを通して、学校情報の発信に努めるとともに、P T A・学校評議員会・関係者評価委員会での話し合いやアンケートにより保護者や地域の意見・要望を積極的に取り入れていくこと。

### 7 学校の特色に関して

- 児童会を中心とした子どもたち自身の自発的な取組と共に、旗振りの保護者、地域の見守りをしていただける方々への積極的な挨拶など、学校外でも挨拶ができるように、教職員の声かけや保護者・地域への呼びかけ等を行っていくこと。

### 8 創甲斐教育について

- 創甲斐教育の意義を全教職員で共有し、組織的・計画的に教育課程に位置づけ取り組んでいくこと。

## 〈学校関係者評価書〉

### 1 全体評価

- 今年度もコロナ禍ではあったが、保護者や地域と連携しながら、教職員が一丸となって教育活動に取り組んできたことがうかがえた。

### 2 観点ごとの評価結果

#### I 学校教育目標・学校経営について

- 学校教育目標をもとに学校教育活動がなされている。教職員が同じ方向を向いて、今後も職務にあたってほしい。

#### II 学校運営について

- ベテラン教職員と若手教職員が、互いの良さを生かしながら力を合わせ、日々の教育活動に邁進してくれている。教職員同士のコミュニケーションが円滑に行われる職場環境を今後も維持してほしい。
- 働き方改革の目的を理解し、これからもゆとりをもって児童のみとりを行うことができるように努めてほしい。
- 「危機管理マニュアル」を生かし、学校事故を最小限にとどめるように努めてほしい。

#### III 学習指導について

- 誰一人取り残すことのない個別最適な学びと協働的な学びを、具体的に示し、一人一人の教職員の授業力向上に励んでいただけている。何のために学ぶのかを意識させるために、「学習のめあて」を明確にした授業を継続してほしい。

#### IV 生徒指導について

- 子供が安心して相談できる教師力を高めていくことが重要である。

#### V 地域との連携について

- これからも開かれた学校としての説明責任を果たし、地域や保護者から信頼される学校運営をしてほしい。
- 学校、地域、保護者が協働して、地域を大切にする子供たちを育てていきたい。
- 地域の方が関わった活動に対して、子供たちは生き生きと取り組んでいる。
- 今後も地域の方と連携をした教育活動を推進してほしい。

#### VI 学校の特色について

- 規範意識が高く、地域の方にも挨拶がきちんとできる子供たちを育ててほしい。
- 子供だけでなく大人も率先して挨拶をして、手本になっていくとよい。

### 3 今後の課題として確認されたこと

- カリキュラムマネジメントによる確実なP D C Aの実施
- 危機管理マニュアルの的確な運用
- 主体的に学習に取り組む児童の育成
- 一人一台タブレットの積極的な活用
- 働き方改革を進め，児童が安心して相談できる体制づくり
- 特別支援，生徒指導に関して関係機関との連携
- 学校と地域の願いを紡いだ社会に開かれた教育課程の実現

#### ※特記事項

- 特になし

以上

